

## O-41 センチネルリンパ節生検(SLNB)による腋窩リンパ節郭清(ALND)省略例の遠隔成績

京都府立医科大学 大学院医学研究科 内分泌乳腺外科<sup>1)</sup>

○中嶋 啓雄<sup>1)</sup>、藤原 郁也<sup>1)</sup>、水田 成彦<sup>1)</sup>、阪口 晃一<sup>1)</sup>、鉢嶺 泰司<sup>1)</sup>、中務 克彦<sup>1)</sup>、  
小林 文<sup>1)</sup>、沢井 清司<sup>1)</sup>

---

【背景】われわれは、ALND省略のために、SLNBによる腋窩リンパ節転移診断を行ってきた。1998年からfeasibility studyを行い、2000年5月からSLNBで転移陰性例に対してALNDを省略するobservational studyを開始した。今回は、その成績について報告する。

【対象と方法】2000年5月～2005年12月までの403例にSLNBを行った。適応は、術前画像診断でcN0で、術前にDCISと診断されているもの。また、浸潤癌では当初は腫瘍径がT1としたが、適宜適応を拡大し現在はT2までとした。SLNBは、RIと色素法の併用法で行った。摘出したSLNは術中迅速病理診断（H&E染色）を行い、転移陰性例はALNDを省略した。

【結果】患者の平均年齢は54.1歳。術前診断は、DCIS：50例、浸潤癌：352例（平均腫瘍径：2.31cm）であった。SLNBの検出率は99.8%であった。平均SN個数は2.2個であった。SLNBが施行できた402例中、341例（84.8%）で転移を認めず、ALNDを省略した。術後平均観察期間は32.7ヶ月（9～76ヶ月）で、腋窩リンパ節再発を5例（1.5%）に認めた。このうち1例は肺転移・残存乳房内再発を伴っていた。腋窩再発までの期間は平均15ヶ月（9～31ヶ月、中央値：18ヶ月）であった。術前腫瘍径はT1：3例、T2：2例であった。病理組織は全例とも硬癌であった。全例腋窩リンパ節郭清を追加し、生存中である。遠隔臓器転移は2例に見られ、1例は前述の腋窩リンパ節再発を伴うもので、もう1例は25ヶ月目に単独骨転移が生じた。SLNBによる、アレルギー、リンパ浮腫、運動障害などの合併症は認めなかった。

【まとめ】SLNBによるALND省略は安全かつ信頼性の高い方法であり、段階を踏んで行えば、T2乳癌まで適応可能であると考ええる。

---